

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果報告 小学校

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の実施概要

1 調査日

令和 8 年 4 月 2 0 日（月）～ 5 月 2 9 日（金）

2 調査集計対象

小学校第 6 学年児童 全国 934,973 人（あきる野市立学校 524 人）

3 市内実施校数（市立）

全市立小学校 1 0 校

4 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

5 調査内容

① 教科に関する調査

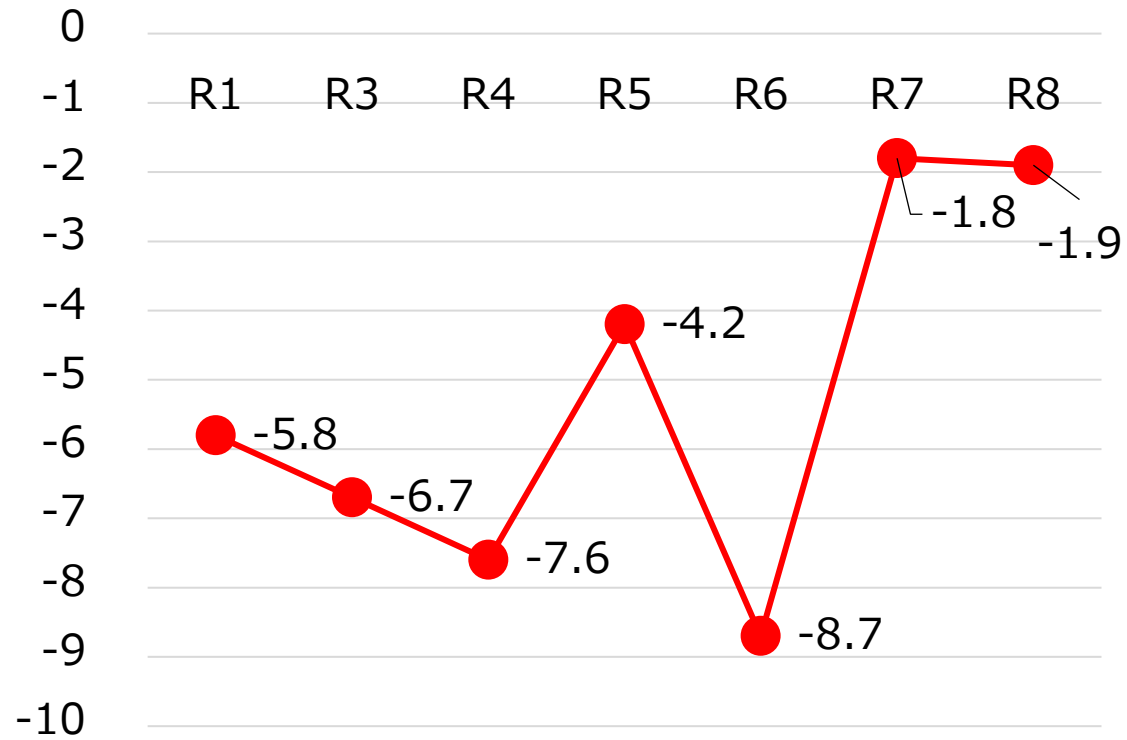
- 国語、算数

② 質問紙調査

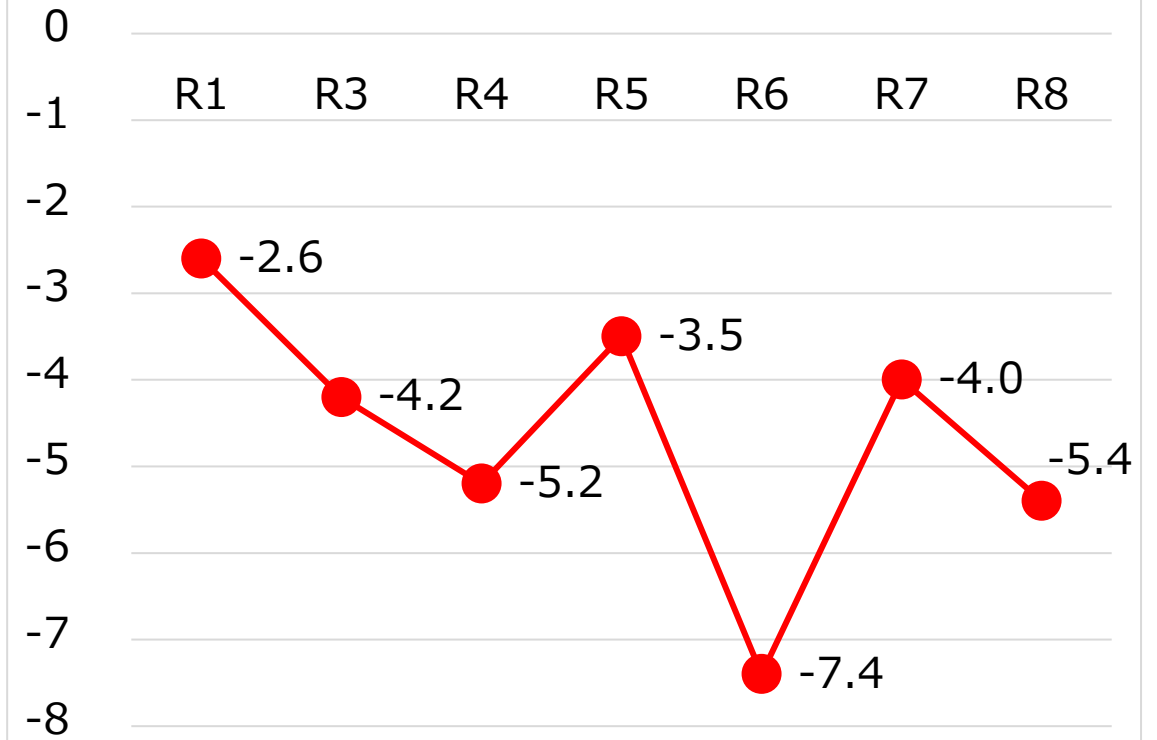
- 児童質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

全国（公立）平均正答率との差の推移（小学校）

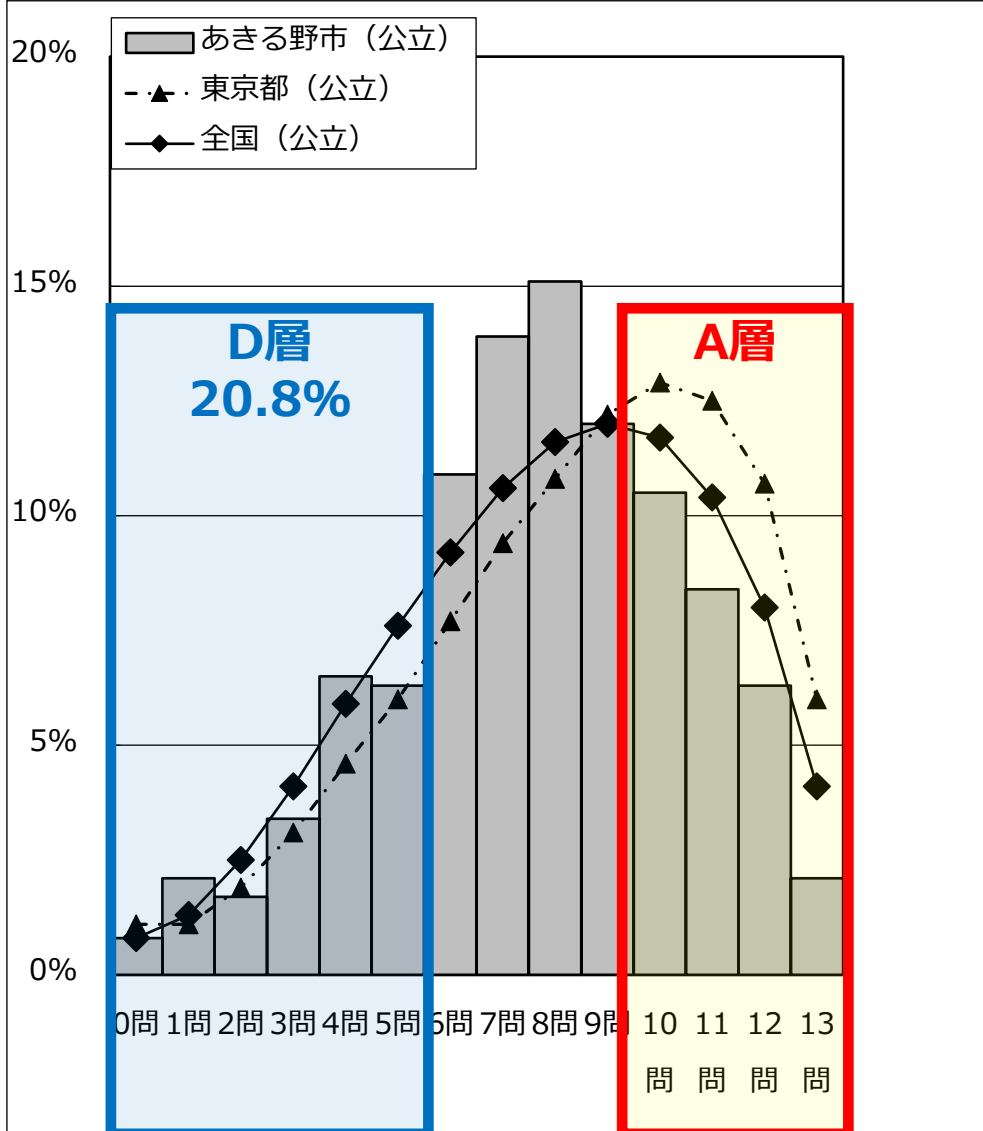
小学校 国語



小学校 算数



「国語」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

国語	平均正答数		平均正答率	
あきる野市（公立）	7.7	/ 13	59	
東京都（公立）	8.4	/ 13	65	-6.0
全国（公立）	7.9	/ 13	60.9	-1.9

全国平均正答率との差			
R5	R6	R7	R8
-4.2	-8.7	-1.8	-1.9

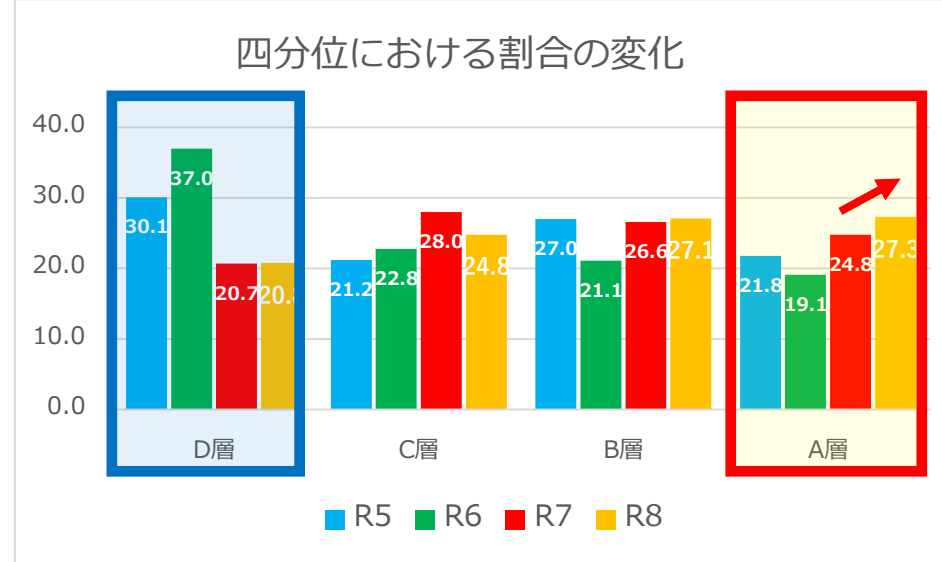
令和7年度と比較して

- ・ 正答率の差が0.1%広がった
- ・ A層の割合が2.5%増加したが、全国及び東京都と比較してA層の割合が低い

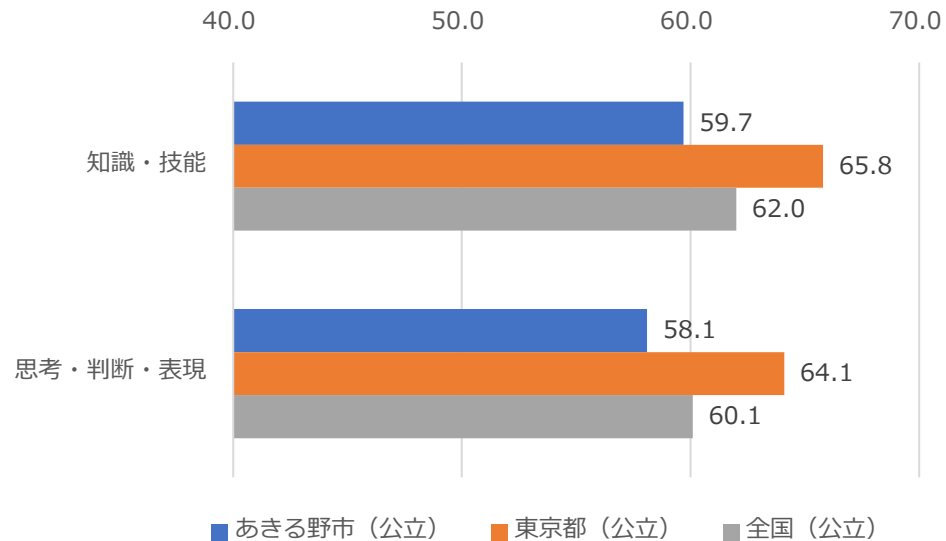
〈四分位における割合%〉

※全国（公立）の四分位による

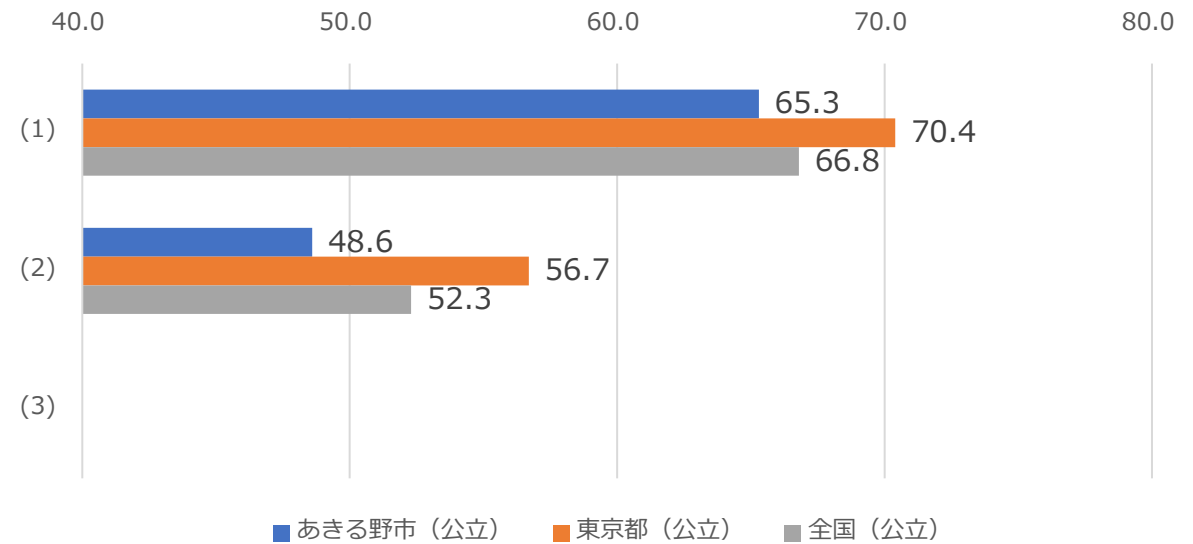
国語	下位 ← → 上位			
	D層 0-5問	C層 6-7問	B層 8-9問	A層 10-13問
あきる野市（公立）	20.8	24.8	27.1	27.3
東京都（公立）	17.8	17.1	23.0	42.1
全国（公立）	22.2	19.8	23.6	34.2



「国語」に関する調査結果（領域別の結果）

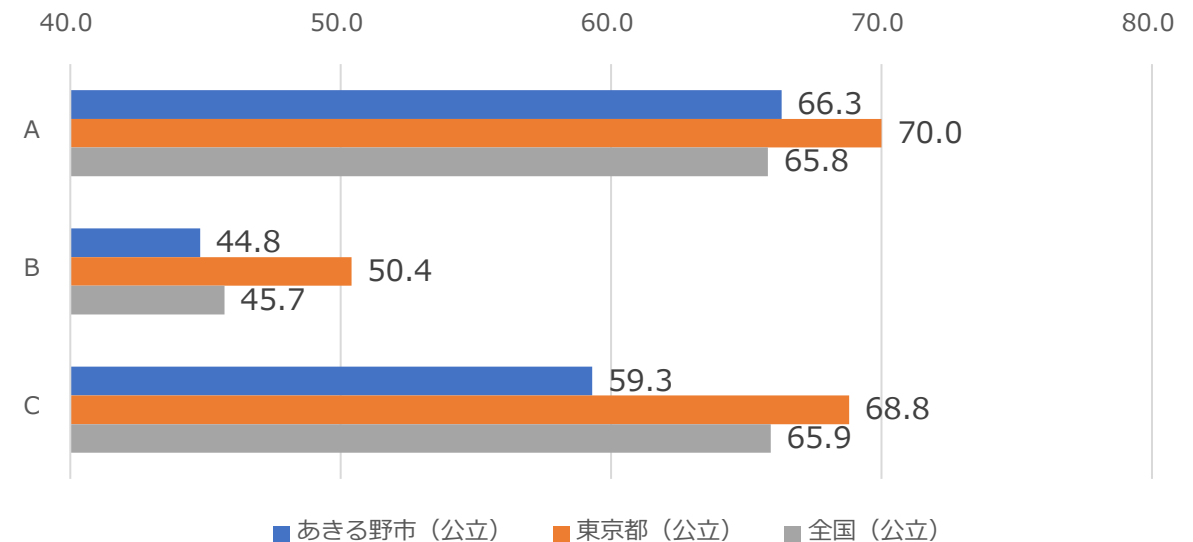


〈知識及び技能〉



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
知識・技能	-2.4	-8.8	-1.1	-2.3
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	-3.2	-9.7	-0.6	-1.5
(2) 情報の扱い方に関する事項	-0.6	-1.0	-1.2	-3.7
(3) 我が国の言語文化に関する事項	なし	-13.6	-2.1	なし
思考・判断・表現	-5.1	-8.0	-2.1	-2.0
A 話すこと・聞くこと	-7.1	-5.0	-0.2	0.5
B 書くこと	-3	-6.0	-1.0	-0.9
C 読むこと	-3.7	-12.4	-4.3	-6.6

〈思考力、判断力、表現力等〉



「国語」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

（「令和8年度全国学力・学習状況調査（報告書）」文部科学省・国立教育政策研究所）

学習指導要領における内容 （2）情報の扱い方に関する事項

〈大問2二〉考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる。
（正答率44.3%）※全国（公立）平均正答率から-4.6%

指導改善のポイント

児童によっては、自分の考えについて具体例を想起できなかったり、自分の考えと具体例が正対していなかったりすることが考えられる。これらの児童に対しては、教師や友達と交流したり、読み手の立場に立って振り返ったりする機会を設定することが効果的である。

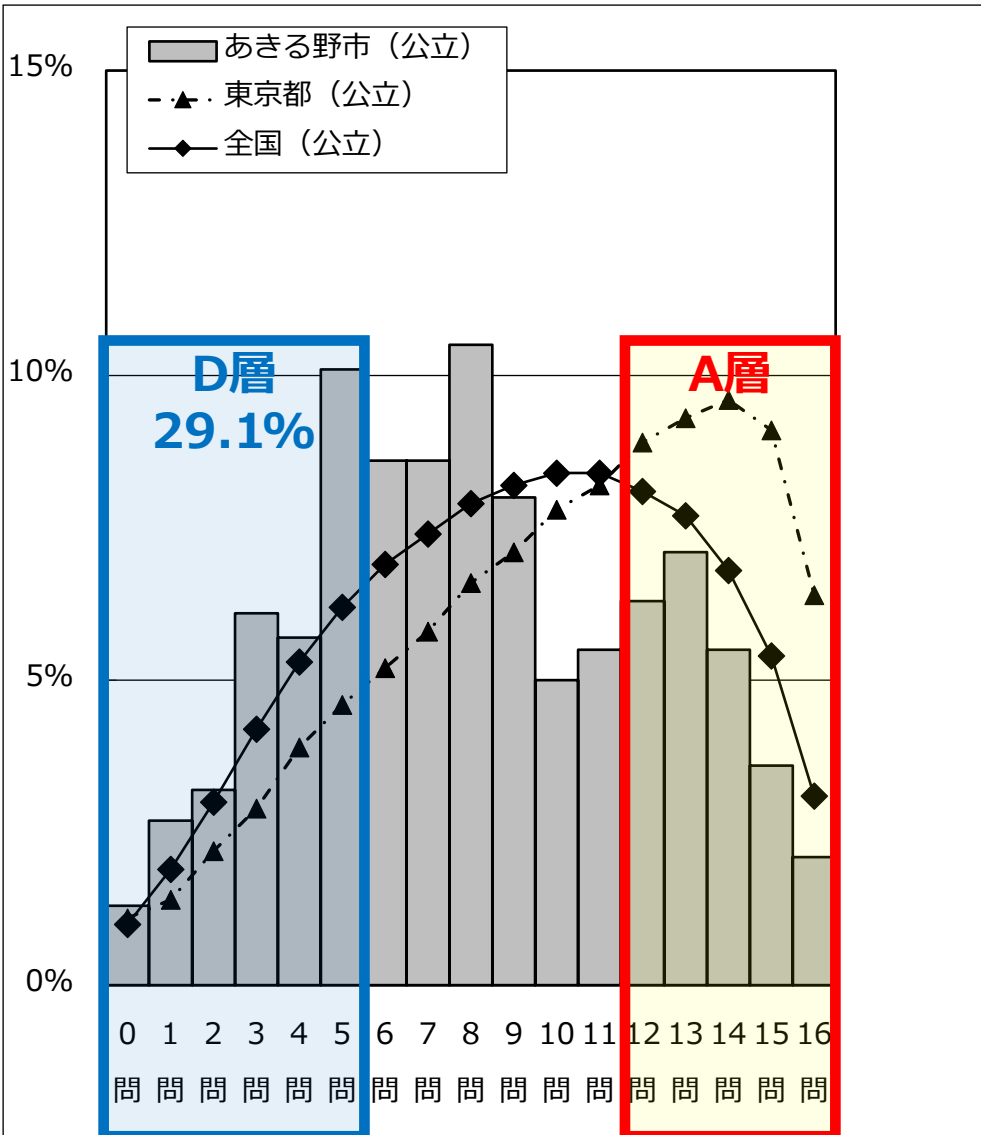
学習指導要領における内容 「C 読むこと」

〈大問3三（2）〉文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
（正答率69.1%）※無回答21.0%

指導改善のポイント

文章を読んで理解したことと既有的知識や経験などとを結び付けて考えることができない場合も考えられる。そのような場合には、読む目的を意識することを促し、文章を読んで理解したことの中に、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付くことはないかを意識するように指導すると効果的である。また、児童同士で交流することにより、自分の考えを明確にしたり、考えの質を高めたりできるようにすることが有効である。

「算数」に関する調査結果（正答数分布）



〈平均正答数〉

国語	平均正答数		平均正答率	
あきる野市（公立）	8.1	/ 16	51	
東京都（公立）	10.1	/ 16	63	-12.0
全国（公立）	9.0	/ 16	56.4	-5.4

全国平均正答率との差			
R5	R6	R7	R8
-4.2	-8.7	-1.8	-5.4

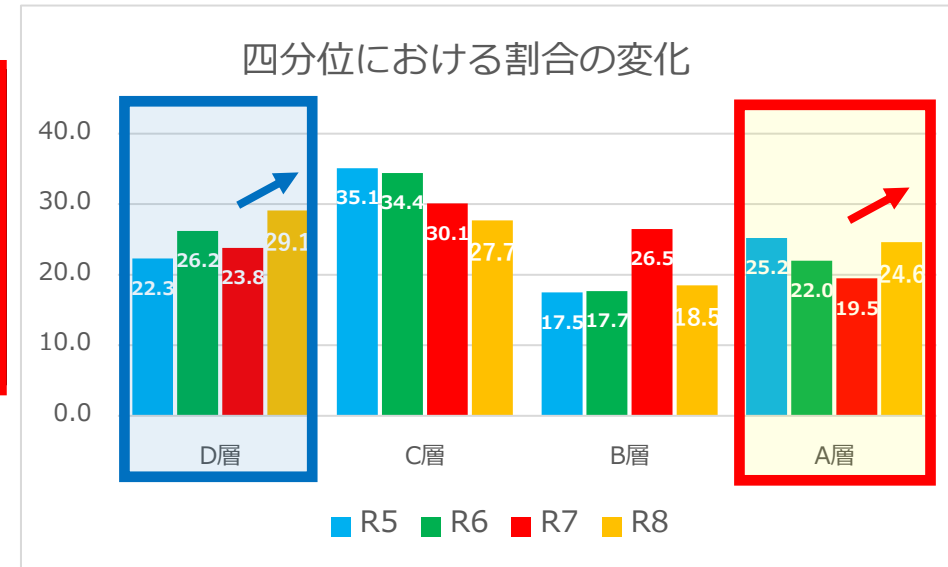
令和7年度と比較して

- ・正答率の差が3.6%広がった
- ・D層の割合が5.3%増加した
- ・A層の割合が4.9%増加したが、全国及び東京都と比較してA層の割合が低い

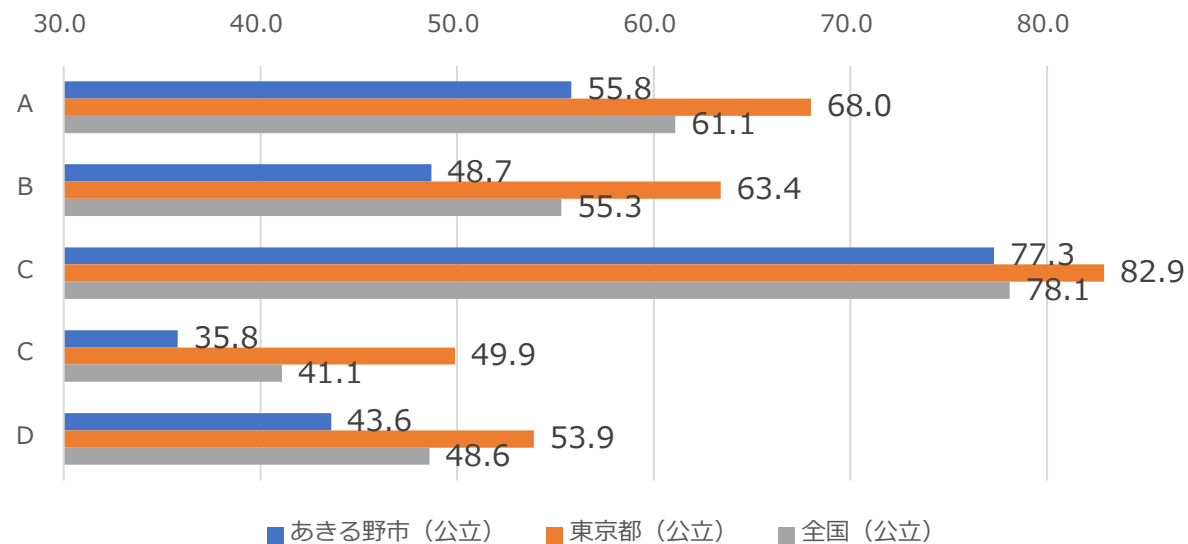
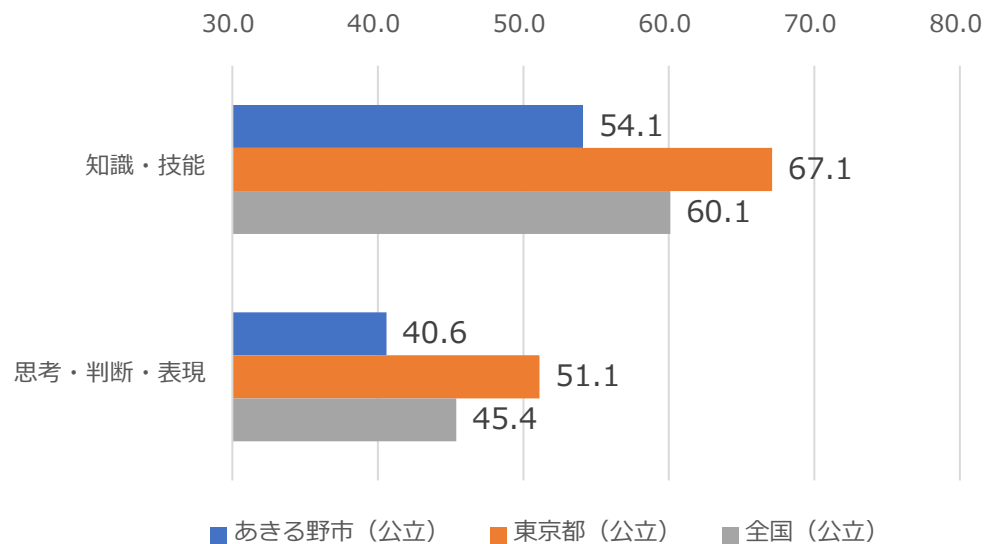
〈四分位における割合%〉

※全国（公立）の四分位による

算数	下位 ← → 上位			
	D層	C層	B層	A層
	0-5問	6-8問	9-11問	12-16問
あきる野市（公立）	29.1	27.7	18.5	24.6
東京都（公立）	16.1	17.6	23.1	43.3
全国（公立）	21.6	22.2	25.0	31.1



「算数」に関する調査結果（領域別の結果）



全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
知識・技能	-2.3	-6.6	-3.0	-6.0
思考・判断・表現	-4.3	-8.0	-4.9	-4.8

全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
A 数と計算	-3.5	-7.6	-3.5	-5.3
B 図形	-2.3	-6.6	-3.3	-6.6
C 測定	なし	なし	-5.7	-0.8
C 変化と関係	-0.6	-7.2	-3.6	-5.3
D データの活用	-6.6	-7.5	-4.0	-5.0
全国（公立）平均との差	R5	R6	R7	R8
知識・技能	-2.3	-6.6	-3.0	-6.0
思考・判断・表現	-4.3	-8.0	-4.9	-4.8

「算数」課題が見られた問題の概要と指導改善のポイント

(「令和8年度全国学力・学習状況調査(報告書)」文部科学省・国立教育政策研究所)

学習指導要領における領域・内容 「B 図形」

〈大問1 (1)〉 立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる。

(正答率57.8%) ※全国(公立)平均正答率から-14.9%

指導改善のポイント

指導に当たっては、例えば、長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動が考えられる。その際、立方体や直方体は一辺が1 cmや1 mなどの単位体積の立方体を積み重ねてつくることができることから、単位体積の立方体をきちんと敷き詰めた1段分の個数と、その段の個数をかけあわせることで、直方体や立方体の体積を求められることを理解できるようにすることが大切である。

学習指導要領における領域・内容 「C 変化と関係」

〈大問2 (2)〉 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる。

(正答率43.3%) ※無回答7.2%

指導改善のポイント

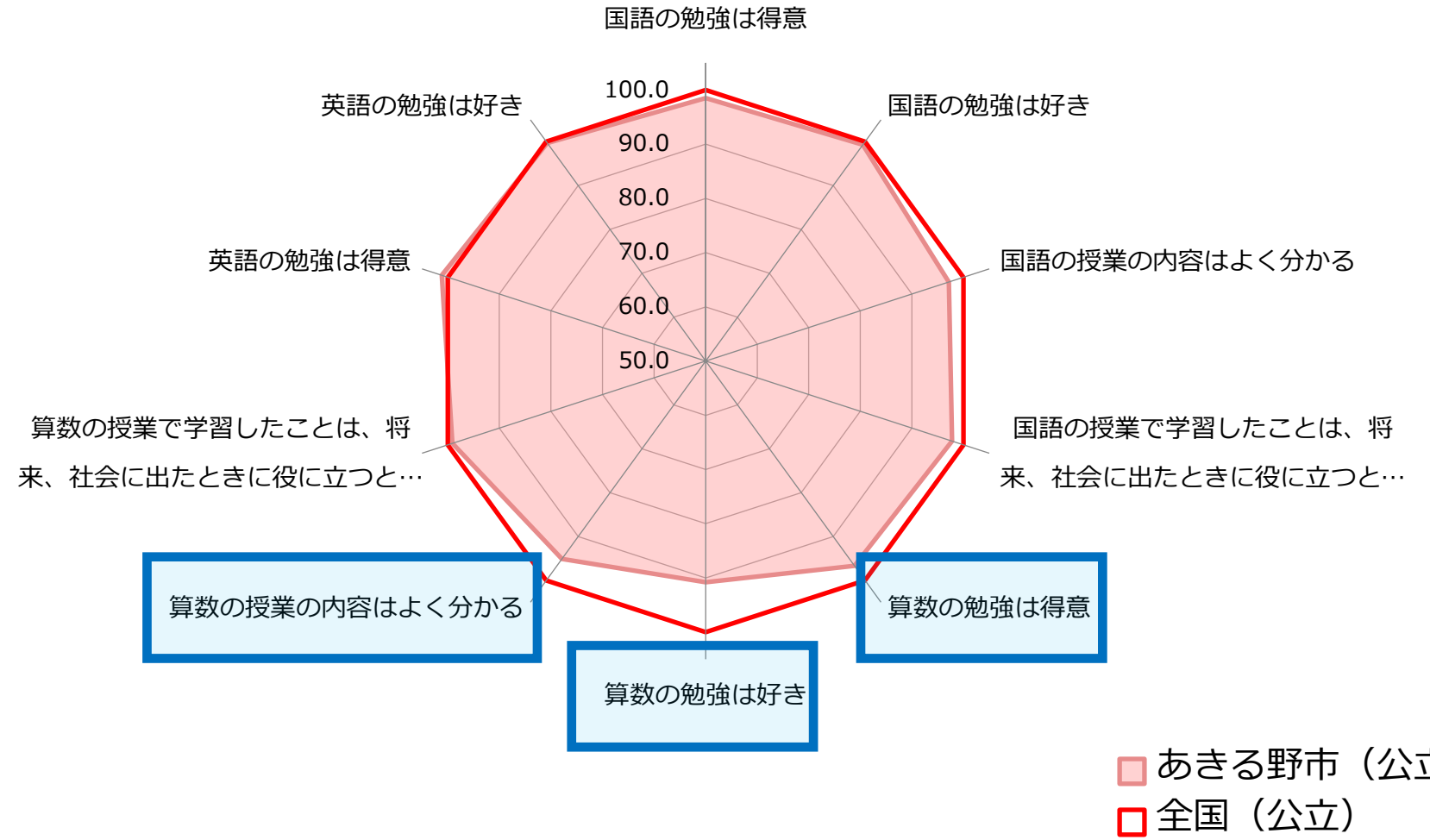
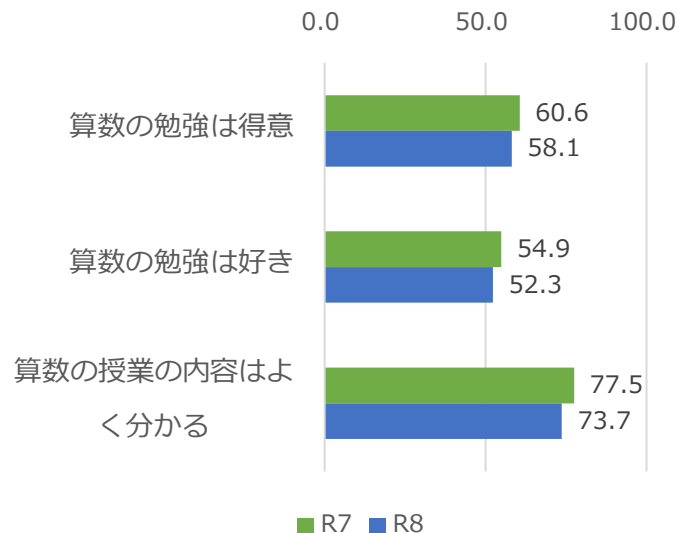
本設問を用いて、イシガメの数とその割合から、動物園全体のカメの数を求める活動が考えられる。その際、 $(\text{基準量}) \times (\text{割合}) = (\text{比較量})$ などの言葉の式だけでなく、数直線などの図を用いて、児童が自ら基準量、比較量、割合を書き込み、それらの数量の関係を捉えることができるようにすることが大切である。そして、「全体が1である」と「基準量の0.2に当たる数が14である」ことから「 $\square \times 0.2 = 14$ 」と立式し、「 $\square$ を求めるためには、 $14 \div 0.2$ を計算すればよい」と捉えることができるようにすることが大切である。

各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉

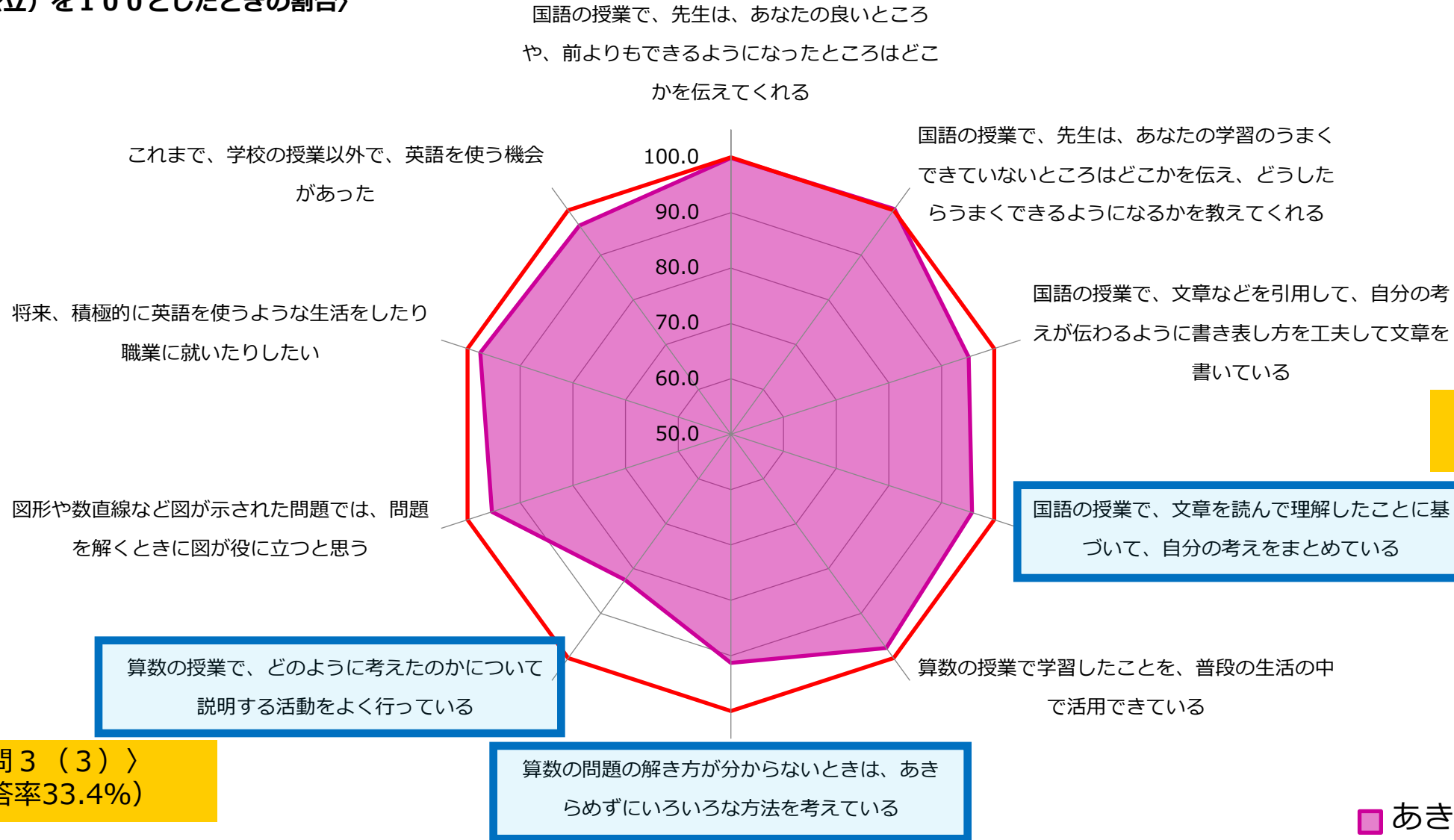
前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



各教科への興味・関心、理解度

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



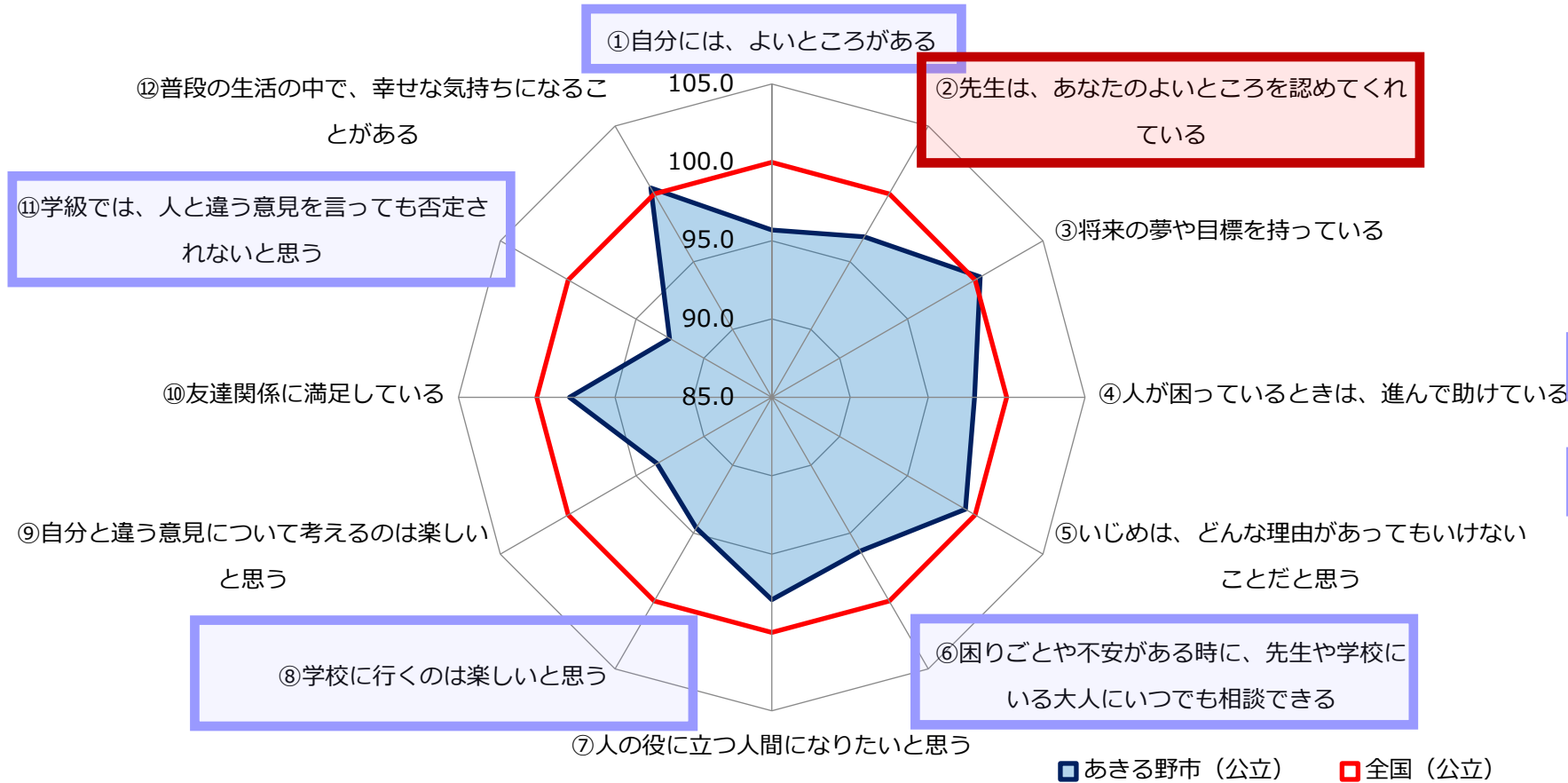
■ あきる野市（公立）

□ 全国（公立）

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



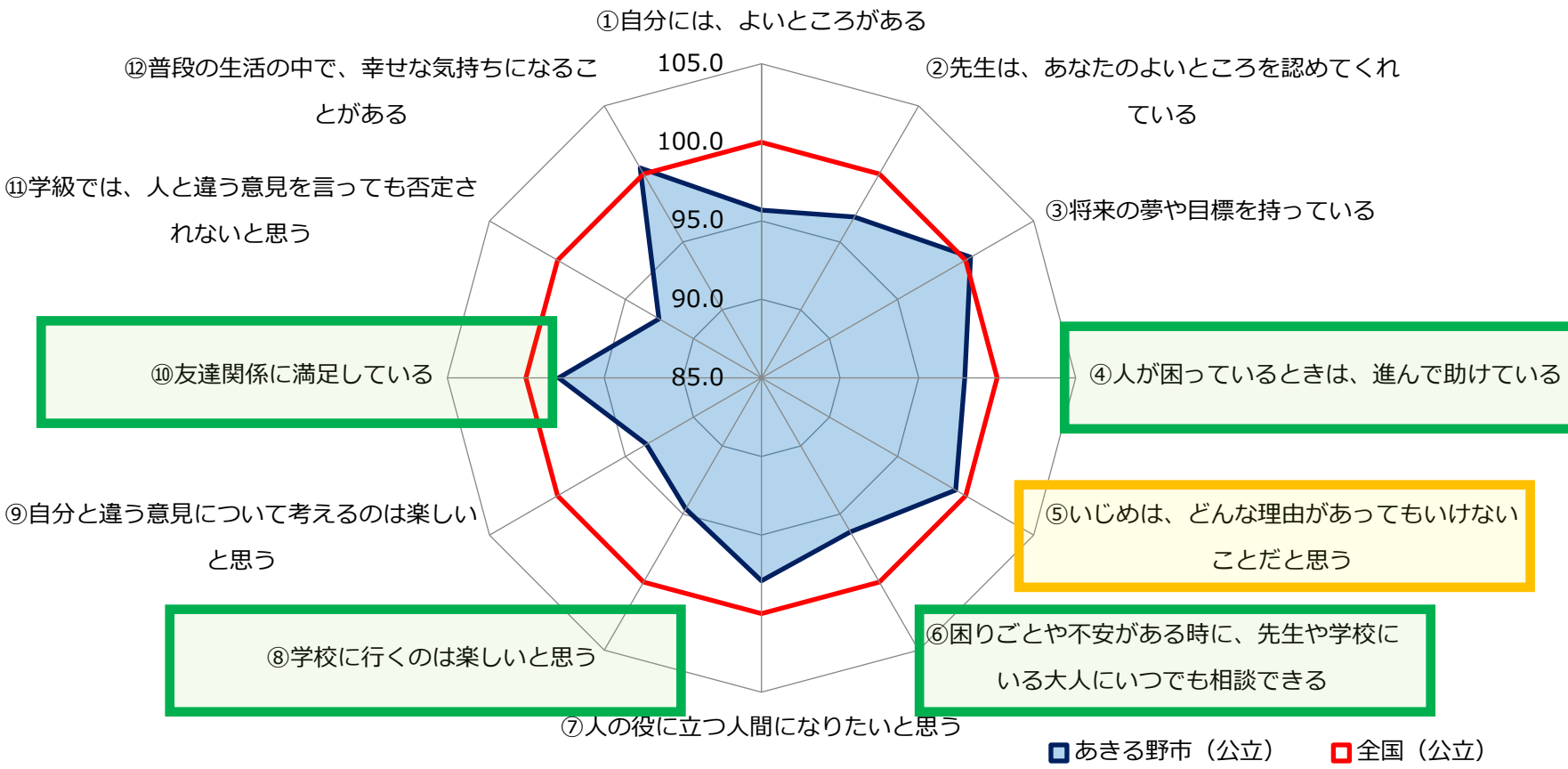
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」への回答と、「自分には、よいところがある」「困りごとや不安がある時に先生が学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しい」「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」への回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

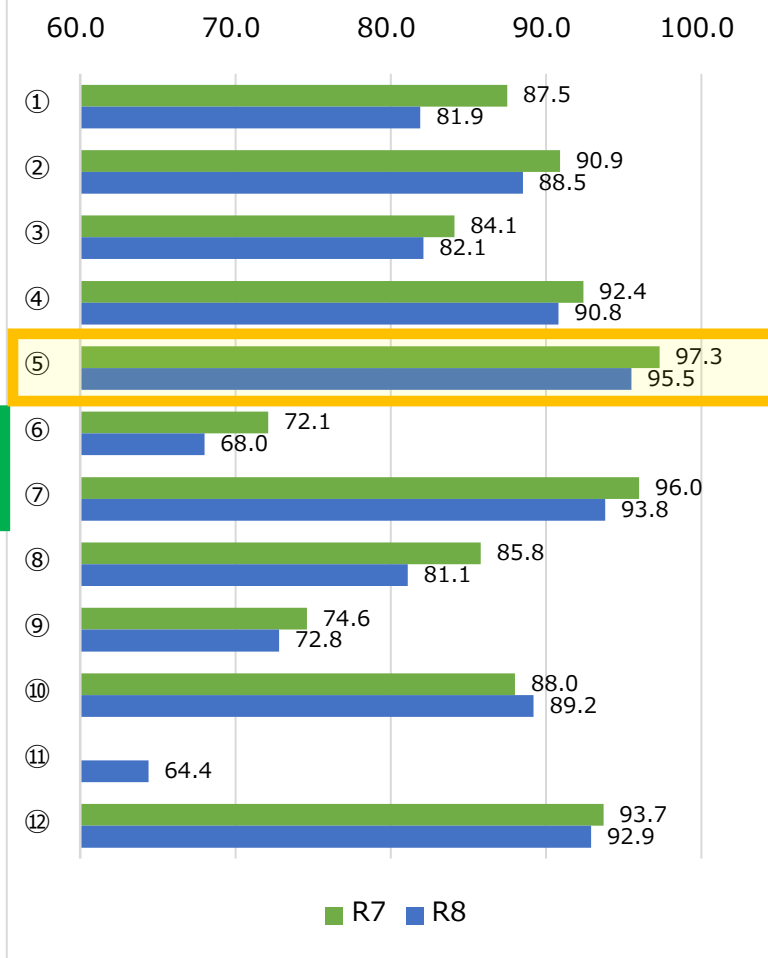
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等（いじめ・不登校）

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）

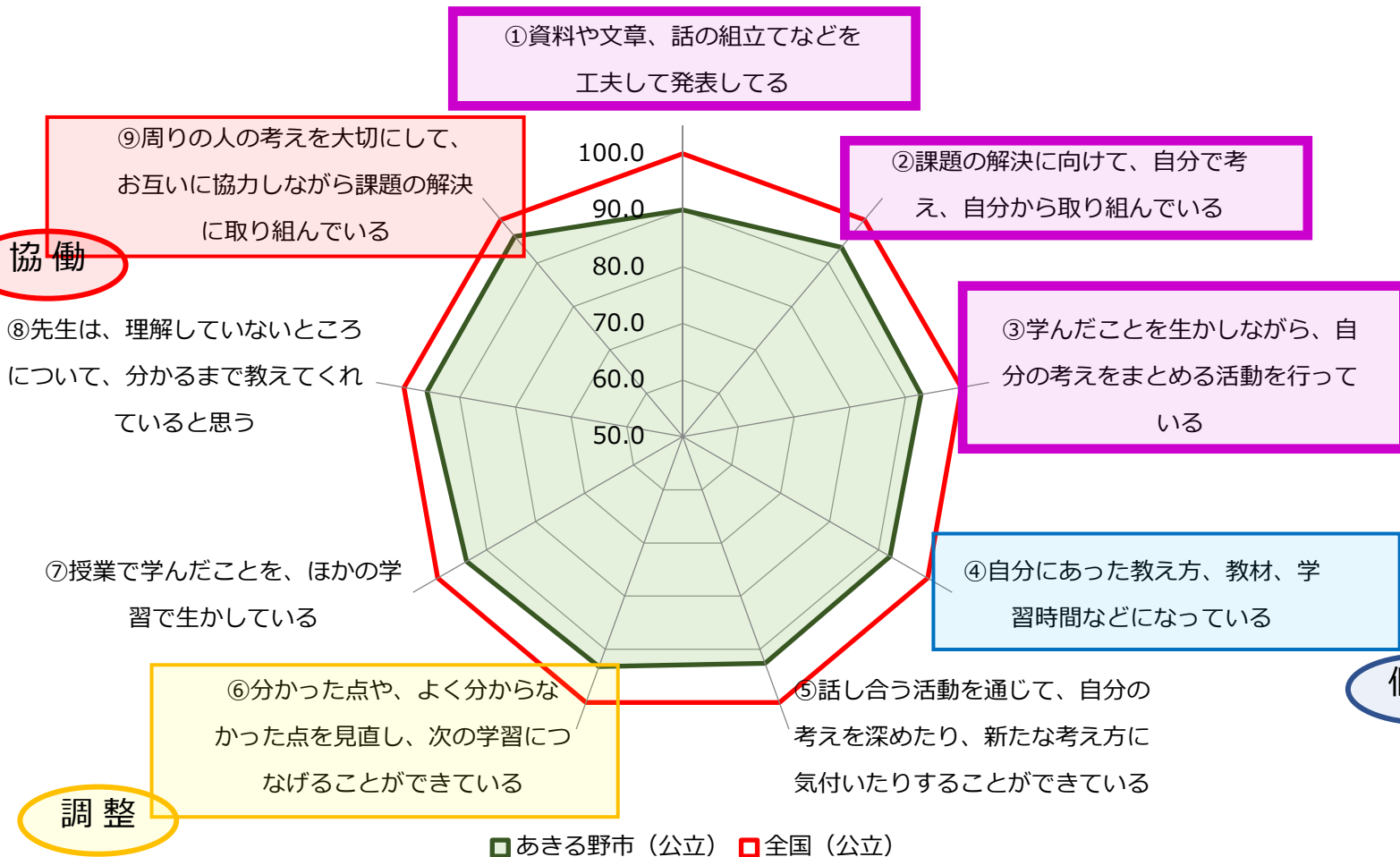


○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をする生徒の割合
令和8年度結果 95.5%

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



各教科の正答率と関連

- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 学びの主体的な調整ができていると考える児童ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

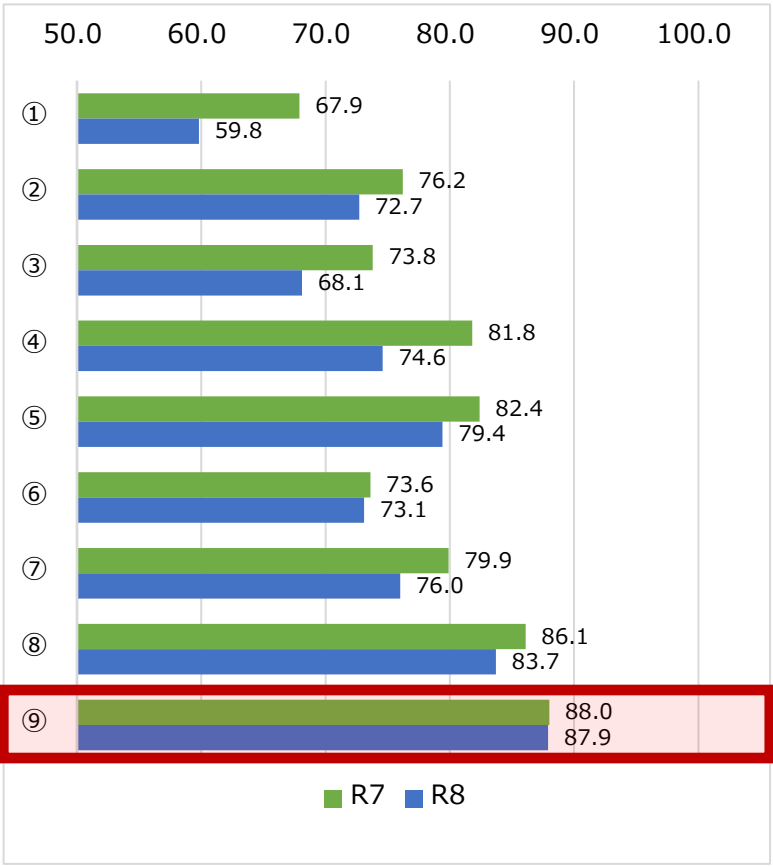
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば、当てはまる）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



前年度との比較（肯定的な回答をした児童の割合）



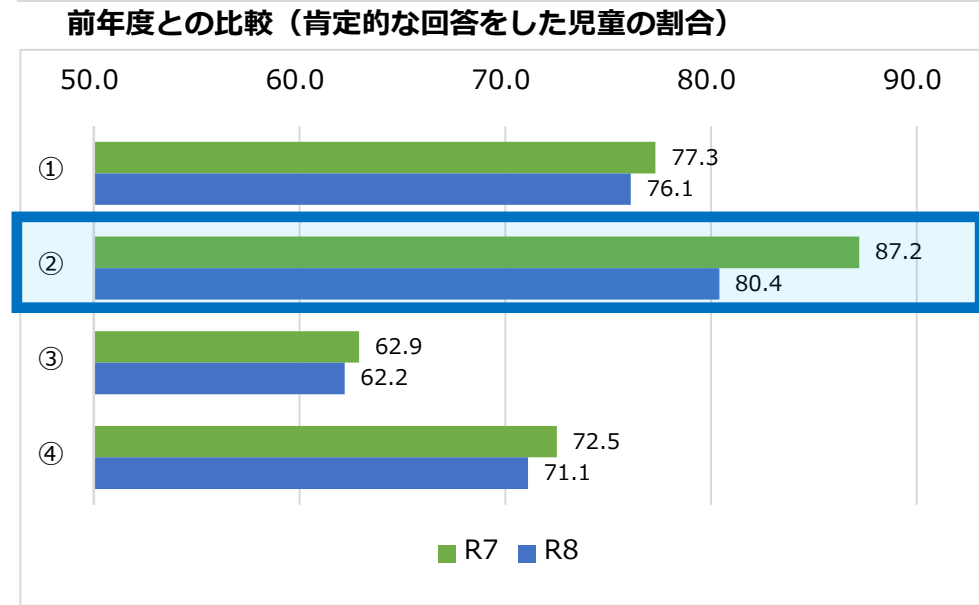
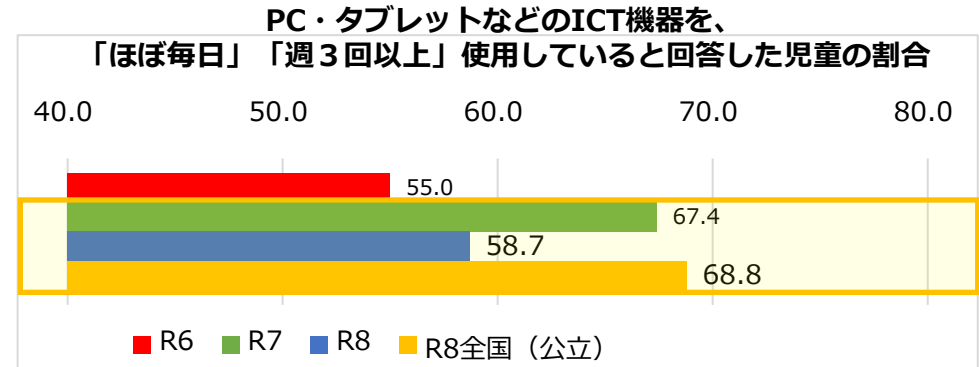
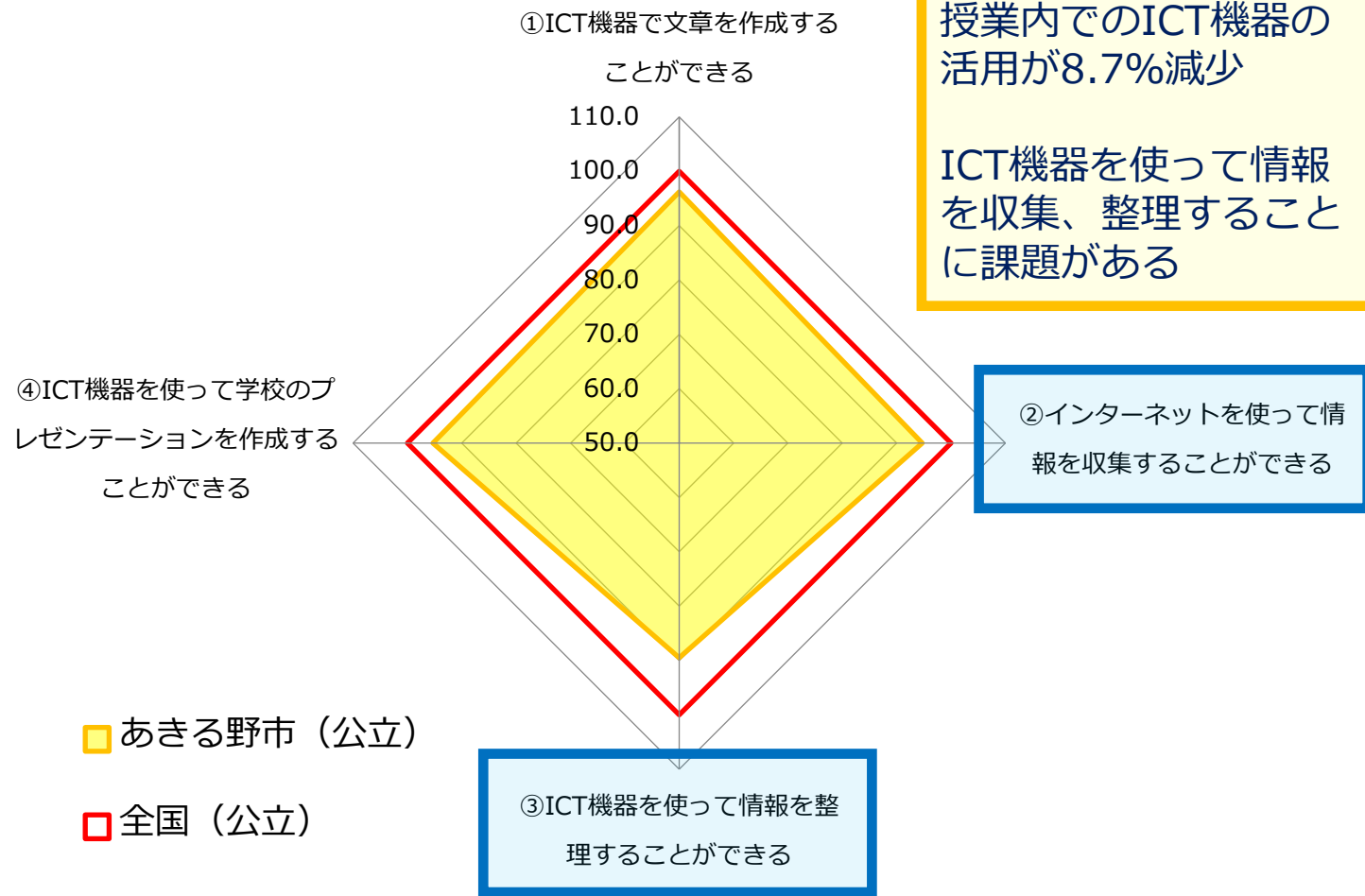
○「周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」への回答と、「人が困っているときは、進んで助けている」「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」への回答の間には相関が見られ、相互に影響を与えている可能性がある。

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）

ICTを活用した学習状況

○肯定的な回答（とてもそう思う、そう思う）と回答した児童の割合

〈全国（公立）を100としたときの割合〉



○ICT機器を活用する自信がある児童ほど、わからないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考えて工夫したり、課題の解決に向けて自分で考えて取り組んだりしていると考えている傾向が見られる。（個別最適な学び）

○ICT機器を活用する自信がある児童ほど、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたり、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしていると考えている傾向が見られる。（協働的な学び）

（「令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」文部科学省・国立教育政策研究所）